JAとりで通信 NO.417
2025.7.29

連載
連携医のご紹介

連載 健康講話
血管炎症候群

感染対策委員会

特集　感染対策委員会のご紹介

● 感染症の予防に向けて

感染対策委員会の目標は、患者さんや職員を感染症から守ることですが、直接、患者さんや職員に抗菌薬を投与して、治療に携わるという手段で守るわけではありません。平時の場合、手の消毒、器材の滅菌、医療廃棄物の処理、病棟の整理整頓や清掃に始まり、耐性菌まん延の予防、抗菌薬使用状況の確認、ワクチン接種、各種感染症発生時の保健所への届け出、近隣のクリニックや病院との連携など、いわゆる公衆衛生と言われる手段を使って、感染症のリスクを減らすことに従事しています。

様々なレベルでの感染対策が必要であるため、感染対策委員会は医師、看護師（感染管理認定看護師、外来、病棟、手術部）、薬剤師、検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、事務方（庶務課、医事課、施設課）（順不同）などの様々な職種が所属し、各専門の分野を担っています。

● 感染症の拡大を防ぐために

有事の場合、つまり法令で定められた感染症が発生した場合は（例えば結核や麻疹（はしか））、保健所と連携しながら結核接触者検診の実施、疫学調査やウィルス検査の提出に協力します。また院内で感染症がアウトブレイクした場合も（コロナやインフルエンザ、疥癬などの感染率の高い疾患）、感染対策委員会と各病棟が協力して、感染拡大を防ぐ手段を講じます。

コロナ禍での入院診療

コロナ禍での受付

多職種が出席する感染対策委員会

コロナ禍での待合室

茨城県の第二種感染症指定医療機関に指定

当院は現在、茨城県の第二種感染症指定医療機関に指定されています。二類感染症が発症した場合、その患者さんを隔離する施設を有しています。何時、どんな感染症が流行するか分かりませんので、定期的に防護服の着脱訓練や近隣病院間での患者さん搬送訓練を行っています。記憶に新しいのは2020年初頭に始まったコロナ禍の際で、感染対策委員会が調整を行いながら院内の各部署が受入れ準備に協力し、クルーズ船のコロナ患者さんを感染症病棟で複数受け入れました。

感染症病棟

新興感染症発生時の対応訓練

新興感染症発生時の対応訓練

院内や各医療機関とのコミュニケーションを大事に

以上のように、感染対策委員会は様々な側面から患者さんや職員を感染症から守ることを目標としていますが、感染対策は、「ここまでやれば大丈夫、こうすれば絶対安全」、という正解がありません。平時の基本的な手の消毒や整理整頓を怠ることなく行いながら、有事にも耐えられるような体制づくりのために、各部署や近隣医療機関とのコミュニケーションを大事にしたいと考えています。

感染対策委員会　委員長　小川晋一

血管炎症候群

膠原病・リウマチ内科部長　鈴木　文仁

血管炎症候群は全身の血管の壁に免疫の暴走による炎症が起こり、血管の詰まり（梗塞）や拡張（動脈瘤など）を生じることで臓器障害をきたす疾患群で、罹患する血管のサイズにより大きく3つに分けられます（図1）。共通する症状として発熱や体重減少、血液検査での炎症反応の上昇が挙げられます。ここでは頻度の高い巨細胞性動脈炎と顕微鏡的多発血管炎について説明します。

●巨細胞性動脈炎

巨細胞性動脈炎は大動脈や頭蓋内の血管など主に大きなサイズの血管に炎症を起こす疾患です。炎症を起こしている血管の壁に巨細胞という大きな細胞が見られることからこの名前が付いています。主にご高齢の方が罹患します。典型的には耐えがたい頭痛とともに、こめかみの側頭動脈が腫れてくる場合があります（図2）。重症例では後毛様体動脈という眼の血管が炎症により詰まってしまい治療が遅れると失明してしまいます。また本疾患の合併症としてリウマチ性多発筋痛症という、ある日突然発症する全身の筋肉痛（寝返りが打てないという特徴を持つ）が40％程度に見られます。治療はステロイドが中心ですが、ご高齢の方の罹患が多いことからステロイドによる副作用がしばしば問題になり、最近では関節リウマチで使用する生物学的製剤であるトシリズマブ（商品名アクテムラ）皮下注射を併用することで、早期にステロイド減量を図る治療が出来るようになりました。

●顕微鏡的多発血管炎

顕微鏡的多発血管炎は毛細血管など小さなサイズの血管に炎症を起こす疾患です。日本人には比較的多く見られる血管炎です。小さなサイズの血管は全身どこにでもありますので、様々な部位に血管の炎症による症状が出現します。肺（間質性肺炎や肺胞出血による呼吸状態悪化）、腎臓（糸球体腎炎による腎不全）、末梢神経（神経炎による手足のビリビリ感）、筋肉（ふくらはぎ・すねの痛み）などが代表的な症状です。診察で図3のような小さな紫斑（血管の炎症による出血）が無数にある場合には診断の手がかりとなります。さらに血液検査においてMPO-ANCAとよばれる抗体が出現することがあり、診断の一助となります。治療はやはりステロイドが中心ですが、ステロイド単独の治療では減量過程での再発も多く、免疫抑制剤を併用します。最近ではアバコパン（商品名タブネオス）を内服することで、治療の副作用を軽減しつつ再発を防ぐような方法も選択肢となってきました。

図1．血管炎症候群の分類
（日経メディカルより転載）

Jennette JC. et al. Arthritis Rhheum. 2013:65:1-11. より作成

図2．巨細胞性動脈炎によるこめかみの動脈の腫れ

図3．ANCA関連血管炎による紫斑

全国厚生連栄養士協議会　全国統一献立

おすすめ郷土料理

茨城県

そばいなり

令和7年7月18日の昼食に
患者さんにお出ししました

茨城県笠間市は、日本三大稲荷の一つと言われる「笠間稲荷神社」の門前町として栄えており、その稲荷神社にちなんだ「いなり寿司」は古くから市民や参詣客に親しまれてきました。

「笠間いなり寿司」の特徴は、「そば」「くるみ」「まいたけ」など様々な素材を使った変わり種いなり寿司という点です。「そばいなり」は昭和35年に初めてそば屋が考案しました。

材料　4人分

材料：8個

（A）

油揚げ	4枚
だし汁	150cc
砂糖	大さじ2杯
酒	大さじ1杯
醤油	大さじ2杯

（B）

茹でそば	200ｇ
きゅうり	20ｇ
白ゴマ	少々
麺つゆ	大さじ1杯
ごま油	小さじ1杯

紅しょうが	適量

作り方

① 油揚げは半分に切り袋状にし、湯通しして油抜きする。
② 鍋に①と（A）を入れて、汁気がなくなるまで煮る。
③ 茹でそばは半分に切り（B）の材料を混ぜる。
④ ②に③の具を詰めたいなりに、紅しょうがをのせる。

1人分（2個）の栄養価

エネルギー (kcal)	蛋白質 (g)	脂質 (g)	食塩相当量 (g)
248	11.0	6.1	0.9

連携医のご紹介

しばたキッズクリニック

院　長　柴田　佐和子

診療科目　小児科

診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	休	○	○
14:00～15:00	★	◆	★	休	★	休
15:00～17:30	○	○	○	休	○	休

○ 一般診療　★予防接種　◆乳幼児健診

休 診 日　木曜日・日曜日・祝日

連 絡 先　守谷市立沢235番地7
☎ 0297-21-0811

2007年に守谷市役所近くに小児科専門クリニックとして開院しました。それ以前には総合守谷第一病院に13年間勤務していましたので、その当時患者さんだった子達が、お父さんお母さんとなり、クリニックにお子さんを連れてきてくれることもあります。

内科的な病気以外にも「子供の事ならとりあえず小児科へ」と受診される事が多く、JAとりで総合医療センターさんには小児科のみならず、小児外科、耳鼻咽喉科、脳外科等いろいろな科の先生方にお世話になり、ありがとうございます。

今後とも良質な医療を提供できるよう精進し、地域の子ども達の成長を見守っていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

新人のご紹介

4階西病棟

4階西病棟には今年度、2名の新人看護師が配属されました。

二人は同じ看護学校の卒業生ということもあり、コミュニケーションがよくとれています。先輩看護師から指導されたことや病棟全体の連絡事項などを共有し、何事にも積極的に一生懸命取り組み、日々、成長している様子が見られます。

当病棟には主に脳神経内科の患者さんが入院されており、日常生活の動作を行う際に援助を必要とする患者さんが多くおられます。

患者さんに寄り添い、思いやりのある看護が提供出来るよう、新人含めスタッフ全員、一丸となって取り組んでいます。

新人教育委員

第24回医療連携講演会・懇親会を開催

第24回JAとりで総合医療センター医療連携講演会・懇親会が６月26日に当院の講堂で開催され、院外から117名の方が参加されました。講演会では、当院の小児外科科長の小野健太郎医師が「あなたの街の小児外科医を目指して」と題して講演し、小児科科長の高田数馬医師は「０から分かる食物アレルギー」というテーマで講演しました。

講演会の後で行われた懇親会では、各診療科ごとにテーブルが並べられ、お食事を召し上がりながら参加者の間で盛んに情報交流されていました。

医療連携講演会の様子

医療連携懇親会の様子

売店前のトイレに ベビーシート（おむつ交換台）を設置

患者さんからご要望を頂いた、赤ちゃんのオムツ交換が出来るベビーシート（折りたたみ式）を売店前にある車椅子用トイレに設置しました。

院内のオムツ交換が出来るトイレ

- １階　売店前の車椅子用トイレ
- １階　救急外来のトイレ（2か所）
- ２階　採血・採尿受付機の横の車椅子用トイレ

売店前にある車椅子用トイレ
（ベビーシートを折りたたんだ状態）

売店前にある車椅子用トイレ
（ベビーシートを拡げた状態）

お知らせ

各外来に呼出番号表示盤を設置します

7月28日(月)から、ほぼ全部の外来に呼出番号表示盤を導入します。

再来受付機から出てきた「呼出番号」が表示盤に表示されます。この番号は、患者さんを特定するための番号であり、診察の順番を示す番号ではありませんのでご注意ください。複数の診療科を受診されても同じ番号で呼ばれます。表示盤の案内に従って外待合から中待合へ、中待合から診察室へとお入りください。

「JAとりで健康講話」

日時　9月6日(土)　午後2時～(入場1時30分～)

会場　JAとりで総合医療センター新棟3階講堂

子供の食べ物アレルギー

～治療法や家庭などでの対処法について～

JAとりで総合医療センター　小児科科長 高田　数馬　先生

成長期の安全なスポーツ活動のために

～スポーツ外傷やスポーツ障害について～

JAとりで総合医療センター　整形外科部長 日山　鐘浩　先生

祝日の月曜日の一部を開院します

今年度、祝日の月曜日の一部を開院します。
全ての診療科で平日の月曜日と同じ診療、検査を行う予定です。
外来受診の際にご注意いただくようお願いいたします。

開院日　2025年 8月11日(月)
　　　　　　　11月24日(月)
　　　　2026年 1月12日(月)

訂正とお詫び

NO. 416 (6月24日) に掲載した「新採用医師のご紹介」の中で、循環器内科の医師、坂口楓とご紹介しましたが、正しくは、阪口楓です。訂正してお詫びいたします。

「JAとりで通信」のアンケートにご協力をお願いします

右のQRコードからアンケートを開きお答え頂くようお願いいたします。

今月の表紙　感染対策委員会は多職種メンバーで構成されています。各メンバーが専門性を活かし、お互い協力しながら、日常診療を感染対策の分野から支えてゆきます。

発行所：JAとりで総合医療センター　発行人：冨満 弘之　編集：広報室
〒302-0022　茨城県取手市本郷2-1-1　TEL:0297(74)5551 URL:http://www.toride-medical.or.jp/